

企画提案書類

- ・ 地域貢献活用の内容 P2-3
- ・ 初期整備の内容 P4-5

グリーンサポートせたがや



哀しみに寄りそい「ともに生きる」スペース創りを目指して ～グリーフサポートセンターせたがや～

「グリーフサポートせたがや」とは？

米国オレゴン州に「ダギーセンター」(www.dougy.org)という団体があります(詳細は下記)。ダギーセンターは、死別を体験した子どもたちが集い、同じ体験をした子どもたち同士で遊びやおしゃべりを通じて、悲しみや辛い気持ちに向き合うことのできる家です。

私たちは2012年夏このセンターの研修会に参加し、子どもたちがゆっくりと自分のペースで安心して自分たちの気持ちと向き合えるようなサポートを受けていることに感銘を受けました。そして、自分たちが暮らす地域でも同じような活動を始めたいと思い「グリーフサポートせたがや」を立ち上げました。大切な人を亡くした子どもや大人をサポートするスペースづくりに向けて活動を始めています。

「グリーフ」とは？

私たちは、死別喪失だけでなく、離別、暴力被害(安心感の喪失)、紛争や自然災害による被災(住まいや地域とのつながり、経済的な生活手段の喪失)、失業や就職難(希望の喪失)、貧困(人間らしい生活を営む権利の喪失)、いじめ、年齢・性・民族・宗教・障害・性指向や性自認などによる差別(自尊心やアイデンティティの喪失)、非婚や不妊などへの社会の不寛容(自己肯定感の喪失)など、直接・間接的な要因に起因するすべてをグリーフと捉えています。

ダギーセンターは1人の看護師ビバリー・シャベル氏によって1982年設立。脳腫瘍のため13歳で亡くなったダギーくん(Dougy Turno)への追悼の意をこめてダギーセンターと呼ばれている。

1974年から終末期の患者および遺族のサポートを行っていたビバリー・シャベル氏は多くの人々が死に向き合うことができずにいることを肌で感じ、『死ぬ瞬間』の著者エリザベス・キューブラー=ロス博士の講演に参加。

1981年8月、ダギーくんはエリザベス・キューブラー=ロス博士に「死」についてたずねる手紙を送り、エリザベス・キューブラー=ロス博士からの返事は『ダギーへの手紙』として出版されている。

エリザベス・キューブラー=ロス博士に紹介され、治療を受けるためにオレゴン州を訪れていたダギーくんとお会ったビバリー・シャベル氏は、ダギーくんと子どもたちの会話や命に対する深い理解に感銘を受けてグリーフを抱える子どもたちへのサポート活動を始める。



ダギーくん



新しいダギーセンター(完成予想図)

数値でみる世田谷区の現状

下記にあるように、「グリーフ」を抱えながら日々暮らしている区民が数多くいると考えられます。しかし、現在民間を含め世田谷区内でグリーフサポートを提供できるような体制は整っていません。また、グリーフは年齢、性別、障害の有無などに関わらず多様であることもあり、行政など社会サービス提供の枠組みでは包括的な支援を行うことが大変難しいという現状があります。グリーフは、一般的にうつなどの心の不調だけでなく、免疫機能や自律神経等など身体へ影響を及ぼすことがわかっていますが、平成18年に制定された「世田谷区健康づくり推進条例」には「グリーフ」の視点は含まれていません。

空き家を活用した「グリーフサポートセンターせたがや」が実現すると、グリーフを抱え行き場がなかった人たちが集まって、喪失感による哀しみや「生きる」ことの意味について考えたり、語り合ったり、学び合ったりするスペース作りが可能となります。

【参考】

- 世田谷区民の5人に1人は死別グリーフを抱えている。世田谷区の死亡者数は年間約6,000人。1人亡くなると家族や友人を含め7名がグリーフを抱えると言われており、42,000人がグリーフを抱えることになる*1。世田谷区における自殺・自死による死亡者数は毎年150名前後で推移(2日に1人が自殺・自死で亡くなっていることになる)*2。
- 世田谷区に寄せられたDV相談は、のべ1,000件。多くの女性と子どもたち、その家族・友人・支援者が安全な暮らしを脅かされている*3。
- 世田谷区の離婚数は毎年1500組、つまり毎年3,000人が離婚を経験。大人だけではではなく、生活の変化に伴う子どものグリーフも深刻*4。
- 世田谷区には東日本大震災被災者が300名以上避難しているが、メンタルサポートは民間努力に依存*5。

*1 世田谷区の行政情報, www.seikatsu-guide.com/citysearch/?ccd=13112

*2 世田谷区基本計画(素案)平成25年9月

*3 世田谷区男女共同参画プラン進捗状況報告書(平成19年度)

*4 世田谷区の行政情報, www.seikatsu-guide.com/citysearch/?ccd=13112

*5 東京都総務局発表都内避難者数,

www.soumu.metro.tokyo.jp/17hisaichi/hp/ninzuu.pdf

空き家活用によって実現したいこと

誰の人生にも平等に喪失は訪れます。人は喪失を経験すると否応なく、喪失以前とは違う人生を歩むこととなります。大切な人やものをなくしたときの反応（グリーフ）は、人それぞれです。悲嘆、茫然自失、怒り、自責感、絶望、苦悩、心痛、体の不調、精神的危機、経済不安。それでも人はその後の生活を続けていかなければなりません。

「グリーンサポートセンターせたがや」はグリーフを抱える人が立ち寄り、同じ経験をした人どうして経験をシェアし合い、安心・安全な場所で自分に起きたできごとと向きあうスペースを提供します。子どもの年齢別プログラム、死別であれば亡くなった要因別プログラム（病死・自死・事故死・犯罪被害など）、死別した人との関係（両親、きょうだい、友人など）、死別だけでなく離別や、喪失の内容によって異なるプログラムを提供します。

太子堂5丁目物件は1階が高齢者デイサービス施設、2階および3階は高齢者集合住宅です。その立地を活かして、高齢者の方たちが地域社会の中で生き生きと暮らせるような活動を行なっていくことも可能です。終活やグリーフの勉強会の他にも、高齢者のための音楽療法などを企画できればと考えています。また、ときには長い人生の経験者として、グリーフを抱えてやってくる人たちに寄り添いサポートする側にたっていただくこともできるはず。そうした形で、世代を超えて「寄りそい、ともに生きる」スペースを創っていく可能性が拓けたら、グリーンサポートの活動の大きな力になっていくことでしょう。

管理運営体制

管理運営を担う「グリーンサポートせたがや」のメンバーはそれぞれことなる分野の専門性を持っています（相談員・看護師・子ども支援・女性支援・被災地支援・看取り医療・障害児学童・不登校やひきこもりの子どもや大人への相談・地域福祉分野（手話サークル）、防災など）。それぞれが活動する中で、「グリーフ」はすべての分野に共通する課題であり、「グリーンサポート」が必要であると感じています。メンバー一人ひとりがその専門性を活かし、組織運営、プログラムの実施に携わります。

当面、毎月1万円程度支払える人を募って運営資金にあてることを計画しています。今後、ファシリテーター養成講座など有料のプログラムを軌道に乗せ、収益事業を展開する予定です。PRやコンサルテーションの専門家もいるので、企業の社会貢献活動助成（経団連の1%[ワンパーセント]クラブ会員企業など）への申請、「500人×1万円」募金キャンペーン、ファンレイジングイベントなどを通して将来的には継続的かつ安定的な運営に必要な財源の確保を行います。

また、定期的なファシリテーター・ボランティア養成講座や学習会などを開催し、人材育成を図るとともに、地域の理解を得る活動を同時に実施します。

活用プログラム・スケジュール

<ワンデイプログラム（毎週・定期的・無料）>

子ども向けワンデープログラム（別室で保護者の会）、大人向けプログラム

<ファシリテーター養成講座（半年毎・定期的・有料）>

子どもや保護者、大人を対象としたワンデイプログラムの進行を担えるファシリテーターを養成する講座を定期的で開催し組織基盤の強化につなげる。「グリーンサポートセンターせたがや」をモデルとした施設を区外にも開設できるように積極的に参加者を募集。収益事業にもなる。

<国内外の講師を招いた勉強会・講座・講演会（一年に数度・不定期・有料）>

団体のメンバーのそれぞれの得意分野を活かした勉強会・講座・講演会を収益事業として開催。他団体との連携も模索し、ネットワーク作りにもつなげる。

これまでは… どこにもサポートの場がなかった

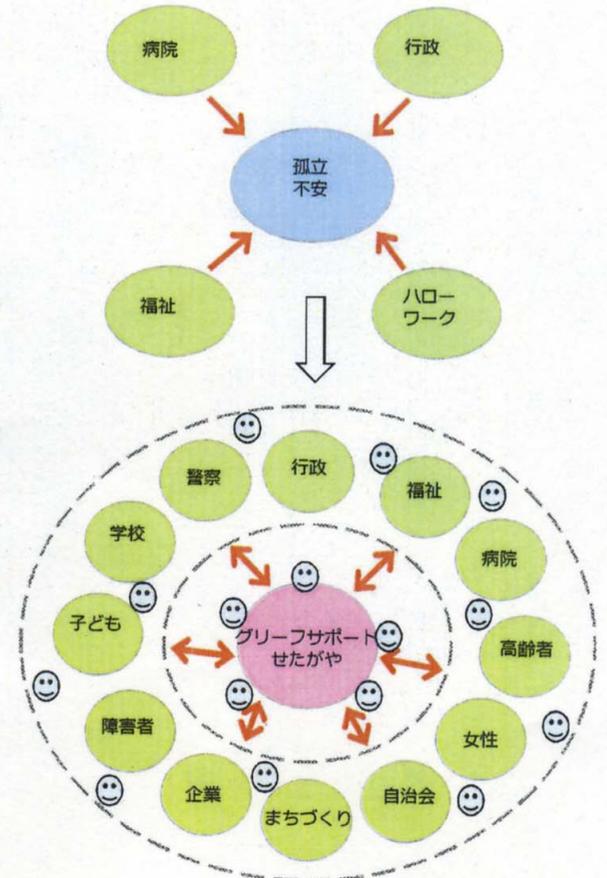
グリーフによる哀しみや心身の不調などを抱えると、話す機会も少なくなり孤立しがちになります。

個別の問題（うつであれば病院、生活困窮であれば行政など）に関しては社会サービスが存在しますが、安心できるスペースで時間をかけてグリーフと向き合い理解するためのサポートはありませんでした。

私たちが目指すグリーフサポートのありかた

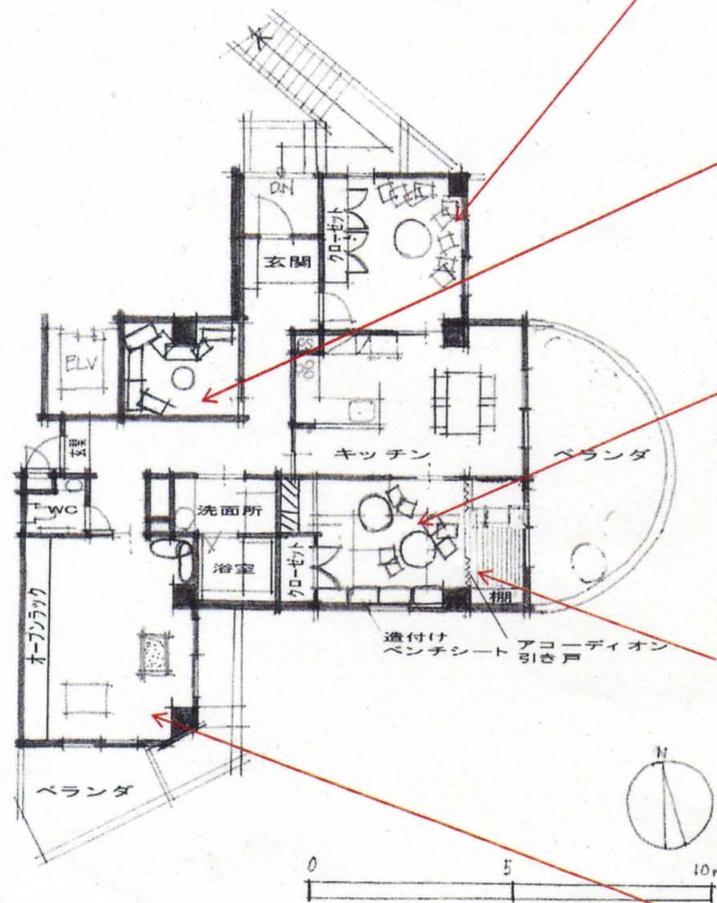
「グリーンサポートセンター」は世田谷区の様々な団体とネットワーク作りをしながら、同じような経験をした人が集い、語り合い、自分の感情と丁寧に向き合うことのできるスペース創りを目指します。

哀しみを抱えたまま独りで孤立することなく、時間をかけて自分に起きたことと向き合い、理解を深めることができる世田谷初のグリーフサポートスペースとなります。



初期整備内容とスケジュール

初期整備スケジュール	
11月上旬	建築士による現場確認 (仕様の確認)
11月中旬 ～下旬	再見積
12月上旬	建設業者の決定
1月	工事材料発注
1月下旬～ 2月中旬	工事
2月下旬	完成 完成おひろめ会



洋室1：
床をフローリングからカーペットに変更
洋服クローゼットを収納クローゼットに変更



納戸：右に現状写真あり
防音
全壁をクッション性の高い素材で囲む
エアコン設置



和室：右に現状写真あり
仏間を本棚
押し入れを収納クローゼットに変更
板間に造付けベンチシート（収納付）を設置



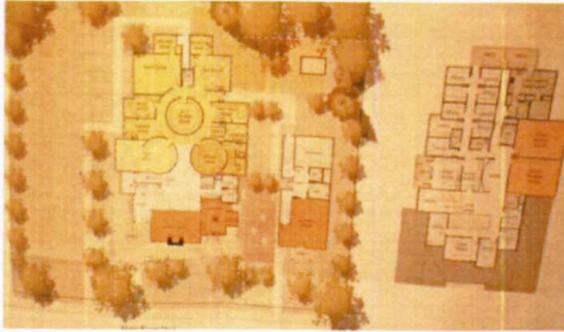
板間
障子引き戸を鍵付アコーディオン引き戸に変更



洋室2：右に現状写真あり
床をフローリングからコルク床
（または防音素材）に変更
造付けオープンラックを設置



せたがやのダギーセンターを目指して ～施設の利用方法とレイアウト～



オレゴン州:ダギーセンター (レイアウト)

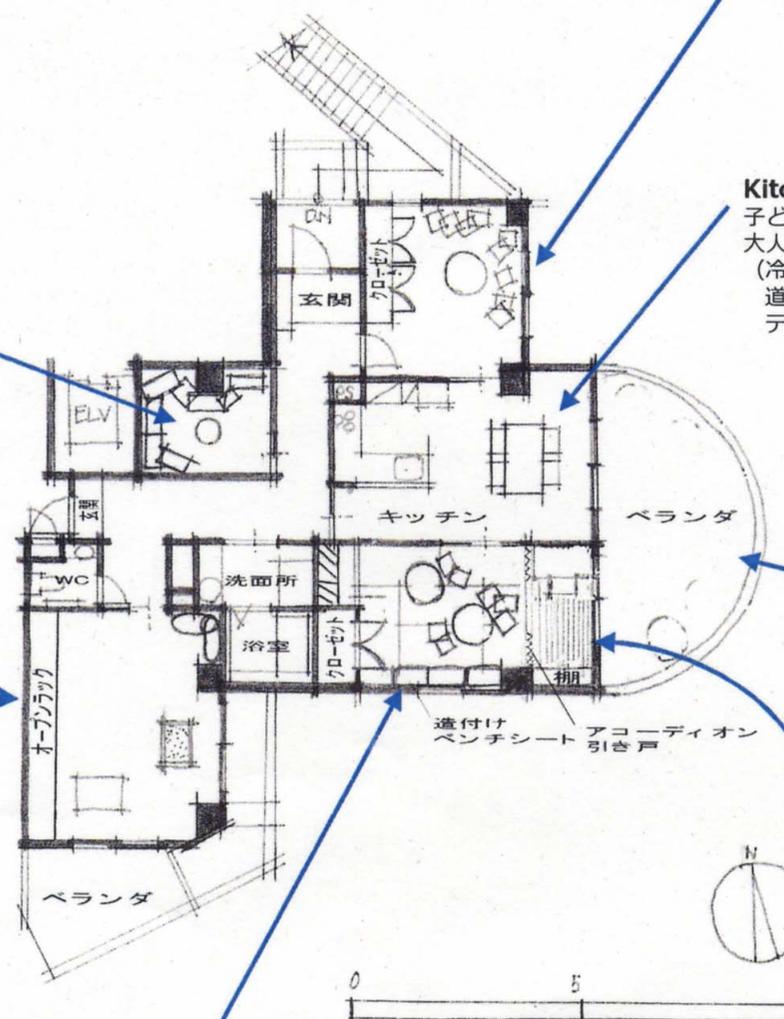


Volcano Room

激しい遊びを行う[壁面はクッション素材で保護]
(サンドバッグ、大きなぬいぐるみ、クッション)

Play Room2

- 活動的な遊びを行う
(砂箱、楽器、ままごと道具、おもちゃ、体を動かすゲーム)
- ファシリテーター養成講座や講座などを行う
(折りたたみ机、折りたたみ椅子、ホワイトボード、プロジェクター、スクリーン、遮光カーテン)



Play Room1

静かな遊びを行う
(本・絵本、アートサプライ一式、ローテーブル)



Talking Room

プログラムが始まる前や最中に話をしたり、大人のかち合いを行う (座布団)



Kitchen&Dining

子どもたちがおやつを食べたり、大人がお茶を飲んだりする
(冷蔵庫、電子レンジ、キッチン道具一式、食器類、ダイニングテーブル、丸椅子)



Balcony

家庭用菜園や屋外での遊びを行う (ガーデニングセット)



Office

センターの運営業務および書類の管理を行う
(事務机、椅子、コピー機、電話、パソコン、プリンター、キャビネット)

